



竹取物語の旅

ユウパリコザクラの会代表 藤井 純一

夕張岳ヒュッテのそうめん流しは知る人ぞ知る名物行事である。いつからかわからぬが、以前ヒュッテを管理していた山岳団体のころから、名物とまではいかなかったかもしれないが孟宗竹を使ったそうめん流しは行われていた。

コザクラの会では子供のイベントの時必ず孟宗竹を樋にしてそうめん流し（実際には冷や麦）をしていた。時には一般登山者にも振る舞って大変喜ばれた。そのことが口コミ、インターネット口コミで名物となったのでしよう。

数十年使われた孟宗竹の樋は相当老朽化し割れ目も入り、また保管が悪くてカビの痕跡が全面に残り、決して衛生的ではなかった。そんなのを嘆いていたら、仲間が「塩ビ製の樋にすればいいんでないかい」。何と情緒のない発言か。これならいっそ調達に行くか、と。

南極観測隊の集いがここ数十年毎年行われている。2014年秋私が幹事で、夕張岳ヒュッテで開催したことがある。一泊目は当時オープンしていたホテルMトレースイ、もう一泊は夕張岳ヒュッ

第119号

2023.01.30 発行

(令和5年)

ユウパリコザクラの会

事務局(菊地)

〒069-0835

江別市文京台南町 53-13

FAX 011-387-1385

携帯 080-6090-1839

E-mail

info@yuparikozakura.org

Website

http://yuparikozakura.org

ようこそ花の夕張岳へ

 https://www.facebook.com/

yuparikozakura/

テで行われ、翌日夕張岳に登ってもらった。会員に接待をお願いし、特にあの頃元気がだった夕張の女性にはたいへんお世話になった。

今回は八ヶ岳山麓で開催され、また名古屋時代の寮の集まりも計画されて、思い切って三十万キロ近くも走った、あの怪しいスーパートラックで行くことにした。一人なら心細いので、会員の大塚氏を説得し、同乗してもらうことになり、ついでだから群馬の以前夕張でコザクラの総会の時講演してもらった、私が二回目に南極に行った時の隊長である藤井理行氏が、薪ストーブを楽しんでいるとのこと、薪を満載に積んで小樽港発のフェリーで行くことにした。(薪はヒュッテの薪とは別調達で、A氏はじめ皆さんが苦労して割ったものではありません。)フェリーは一七時に静かに帳のおりた港を汽笛を鳴らして出航し、新潟までの船旅となった。翌日の朝に酒田市沖で緊急アナウンスがあり、トランプ前大統領に言わせれば北朝鮮のリトルロケットマンが弾道ミサイルを発射したとのこと。甲板に出るのが禁止になった。

本船は九時過ぎ予定通り新潟港に着岸。新潟港周辺は複雑で、なかなか目的の国道に出れず迷走

した。高速道路を走るのが心配なので、ひたすら下の道を使ったが、一般道路でも八十キロは出せたので、長岡あたりで高速に上がることになった。途中越後湯沢の第一次南極観測隊で気象観測担当だった故村越氏の別荘の薪ストーブを譲り受けに寄ったが、百五十キロ以上の重さで積むこともできず断念した。群馬の藤井氏のところまで薪を下ろし、大塚さんは翌日埼玉方面に旅立った。私は八ッ場ダム、草津温泉などを見て回りもう一泊して、二六次の集まりである、長野県の八ヶ岳山麓に向かった。南、北、中央アルプスの素晴らしい景色を堪能し、大塚さんと落ち合う志摩に向かった。

志摩では、リアス式海岸、島並が見られる小高いホテルに泊まり、若き希望に燃えた頃の仲間と会食を一夜が明けた。大塚さんにも同席してもらった。友人が既に孟宗竹の伐採をしてくれていて、四メートルに揃えて、四〇本ぐらい積み込み帰路に着いた。帰りは行き当たりばったり、思い付きの旅だったので、距離感、時間感覚が皆無、能登半島の旅は散々だった。東尋坊で「がけつぷち」とプリントされたTシャツを買っただけ。福井と燕で二泊し、やっとの思いで、新潟港に着き船上の人となり、往復千八百キロ、九泊十日の旅は終わった。

今年もコロナは収まりそうもないが、規制は緩和されると思う。以前のような行事が出来るかどうか不確定だが、新しい竹で長い長いそうめん流しを開催したいと思っている。ご期待ください。現在脊柱管狭窄症の疑いがあり、歩行も困難な時があるが、痛め止めの薬を飲んでなんとか。酒は飲める。竹のオチヨコで日本酒を呑み春を待つ毎日です。

北海道自然保護連合 代表者会議・交流会に参加

10月15日・16日に北海道自然保護連合の代表者会議・交流会に参加してきました。(参加者：藤井・菊地・秋元・阿部博子の4名)

コロナの影響で、代表者会議も久々の開催となりました。今回は十勝自然保護協会の幹事で、晩成温泉で行われました。参加団体は、南北北海道自然保護協会・北海道自然保護協会・ユウパニコザクラの会、大雪と石狩の自然を守る会・十勝自然保護協会になります。15日に集合して代表者会議が行われ、会計報告・活動報告・記念誌発行について・役員改選が行われました。当会の藤井代表が共同代表を退任し、事務局長の菊地が共同代表となりました。(共同代表は3名)その後、場所を移して交流会が行われました。

一夜明け、10月16日(日)に十勝自然保護協会様のご案内で当縁湿原周辺で大樹町などが進めている宇宙開発事業の施設を見学しました。宿泊地の晩成温泉から車で少し走ったところに、宇宙交流センターなる建物があり、中も見学できるようになっていきます。さらに未舗装の道を走るとテレビに度々でてくる大樹町のロケット発射場の近くまで来ることができそうです。辺りは



湿原となっています。背の低いカシワの林が広がっています。周辺は十勝海岸湖沼群となっていて、「十勝坊主」と呼ばれる凍結と融解を繰り返してできる「土饅頭」のような地形がみられます。スキーのモーグルコースを小さくしたようなコブが一面に広がっています。以前は十勝地方のあちこちで見られたようですが、今は農地開拓なので十数か所にしか残っていないとの事です。ロケット発射場は現在は小型ロケット用のものですが、大型ロケット用の発射場を建設するための開発が行われており、ついこの間まで密に茂っていたカシワ林が大規模に伐採されています。海岸沿いの道を移動して旧日本軍のトーチカの跡などを見学しました。辺りはガンコウランという珍しい植物の生育地ですが、あちこちに重機や大型ダンプのようなもので踏み荒らされた現場がありました。自然公園などには指定はされていないにせよ、保護できる場所などを区分化して秩序を持った開発はできないものだろうか?と考えさせられます。



海岸線にある希少植物群の観察

午後帯広市の戸蔦別川上流部に移動して、開発建設部が工事をすすめている戸蔦別川第4号砂防ダムの視察です。案内役は十勝自然保護協会の安井様にバトンタッチします。かねてから日高山脈のエサオマントツタベツ岳や札内岳、十勝幌尻岳などの登山で戸蔦別林道を使っている、自分にとってはなじみ深い林道です。林道数キロの地点に趣のあるログハウスがあるのも知っていました。安井さんの家でしたが、ここが安井さんの家でした。戸蔦別林道は数年前の大



巨大な戸蔦別川第4号ダム (一部)

雨被害で壊滅的なダメージを受け、それからは未訪問でしたが、流域の変わりようには驚きました。林道もかつて通っていた箇所がまるまる流されているところもあり、大規模な伐採跡も見られました。視界が開けると大きなコンクリートの壁が見えました。これが戸蔦別川第4号砂防ダムです。全長が364メートル、高さが18メートルもあります。川の右岸のはるか200メートル先の山の斜面が端になります。このダムを造るとよって、林道そのものも大きく迂回する必要があります。左岸の高いところに見えるのがその代替となる付け替え道路との事です。安井さんのホームページには以下のようになっています。「戸蔦別川の現状開発局直轄事業による70年代の砂防堰堤建設計画立案以来、わずか40kmの戸蔦別川には既に7基の砂防ダム・堰堤、15基の床固工そして2基の流木止め工が造られ、今後更に2基の堰堤、7基の床固工そして5号堰堤の嵩上げが計画され、さらに幅178mの流木止め工が5号堰堤下流位置に予定されています。今後の3号、9号の堰堤は現在建設中の4号堰堤と同レベルとされています。これでは戸蔦別川はダムで覆いつくされしまうだろう」

こんな大規模な砂防ダムがあつてもできるとの事、恐怖に近い事実を目のあたりにしました。このダムたちの開発費用は非公開だそうですが、もともとは税金であることは変わりありません。30km先の帯広市を守るためが大儀名分ですが、多くの帯広市民はこのダムの存在すら知らないのも事実です。

安井さんのホームページ

<https://tottabetudake.wixsite.com/website>



十勝坊主の説明を受ける

森林鉄道探検記

会員 谷口 鏡子

夕張岳今昔との出会い

「昔のヒュッテは頂上直下にあった!？」
一昨年末、当会の2022年カレンダーを受け取ってパラパラと写真を眺めていた時に発した言葉です。

入会したのはほんの数年前で現在のヒュッテの姿しか知らない自分にとっては青天の霹靂と言っても過言ではありませんでした。

そんな時に会報第117号へ寄稿されていた堺俊樹氏から森林鉄道廃線跡探検のお誘いを受けたのはまさに願ったり叶ったり。

戦後間もなくの夕張岳登山ルートについては平成21年発行の当会二十周年記念誌「ようこそ花の夕張岳」に大夕張営林署管理官だった栗山龍太氏が以下のように回想しています。

「終戦の翌年、大夕張営林署へ赴任した僕は(中略)南部の貯木場から林鉄(森林鉄道)に便乗して十五km先の岳線(夕張岳線)末端まで行き、白金川右岸山原の歩道を伝って一kmほど先のヒュッテを目指したが、これは昭和十年頃に拓かれた定番ルートで、歩道の起点に「登山口」の杭が立っていた。昭和十九年にここまで到達した岳線は南部からの直接の入山に途をつけて戦後の登山復興にひと役買い、二十七年までには更に五kmほど奥の二股まで延伸して登山者の人気を高めていた。」

林鉄の終着地を求めて

7月9日早朝、鹿島眺望公園に集合し夕張岳林道へ向かう。白金川で釣りを楽しむ愛好家などが



大露頭と橋梁

よく利用する林道で道幅も確保されており快適な林道走行であったが入溪ポイントを過ぎると両側の笹が行く手を塞ぐほどになり、路面状況も悪くなる一方で先導者がいるとは言え一抹の不安を感じつつ前進。十分ほどで徒歩出発地点に到着。線路の跡地と思われる

平らな開けた場所で車を止め、いざ出発。水量の少ない時期とは言いながら自分の長靴だとちよほど水が入る!へっぴり腰でこわごわと浅瀬を探しながら歩を進めていたが埒があかないと判断して浸水覚悟で川を渡ることになった。川渡りの後はしばらく平坦な線路跡が続く遠足気分でしたがそれも束の間、跡地が崩れ急斜面になっている箇所に出くわしへっぴり腰パート2の出勤となりました。

途中、地層の変化や蛇紋岩の大露頭について堺氏よりレクチャーを受け地質・鉱石観察の魅力を体感すると共に、川渡りで水浸しとなった足元の不快感を忘れる一時にもなりました。

そして鉄道の橋梁が思いの外しつかりと残っていて雄大な自然の景色の中に役割を終えてひっそりと佇む姿には鉄道ファンならずとも心が揺さぶられる思いでした。

水平を保っている箇所が多い線路跡は今も獣道として活躍しており、更には新たな植生の形成を手伝っている様子も見受けられ大変興味深く感じました。

鉄道の終点とおぼしき場所には昼頃に到着、想像したより少々狭い敷地面積でしたがわずかに鉄

製造作物の残骸が確認でき駅舎跡地であったことは間違いないと思われました。

ここで白金川は大きく二股に分かれており、栗山氏の言う「奥の二股」とも合致しています。今回の探索では旧ヒュッテに続く「歩道」の痕跡は繁茂する笹藪に阻まれ、目視では見つけることが出来ませんでした。しかし古い航空写真などを元に方角を特定すれば更に先に進むことも可能との堺氏の談に大きな期待を抱いています。

「歩道」について栗山氏は「イライラするほど緩やかな勾配」で、その理由を戦後の昭和二十二年まで夕張山地一帯を所管していた帝室林野局が御料林の体面上からヒュッテと併せて入念な施工をしたのではないかと述懐しています。

林鉄を降りた登山客たちがヒュッテを目指して歩き出す姿を想像しつつ、川のせせらぎと心地よい風に身を置きながらの昼食は至福の時間となりました。

つい思わさる・・・

日本の近代化を支えた鉄道、この数年は廃線の流れが加速していると感じられ大きな時代の転換点を迎えていることは誰の目にも明らかです。

人や物の移動の効率化、開発と整理のバランスがこれからの課題と言えるでしょうか。

「国破れて山河在り、城春にして草木深し」
北海道の開拓は是だったのか、ひっそりと佇む橋梁がそう問いかけているように思えてなりません。



第六橋梁

今後のスケジュール（予定含む）

月	日	各行事内容
1	21(土) 未定	役員会(札幌Lプラザ) 冬季ヒュッテ巡視②
2	未定	冬季ヒュッテ巡視③
3	18(土)-19(日)※	春山パトロール
4	未定	総会前役員会
5	未定 13(土)※予定	夕張岳関係者協議会 2023年度定期総会
6	4(日)※予定 10(土)※予定 18(日)※予定	第1回パトロール(登山道整備) 夕張岳ヒュッテ開き 第2回パトロール 兼官民合同パトロール①

※新型コロナウイルス関連の国や北海道などの緊急事態宣言や要請により、予定は変更や延期になる可能性があります。

コザクラ会役員会を3年ぶりに開催

ユウパリコザクラの会では新型コロナの関係で、暫くの間役員会を開いておりませんでした。1月21日札幌エルプラザにおいて臨時の役員会を開催しました。

- 議題内容は再協議して5月の総会で承認予定となります。
- ・2022年度活動報告(高山植物盗掘防止パトロール、森林パトロール、夕張岳登山道の整理&植生復活事業、鹿島眺望公園看板設置)
 - ・2023年度活動計画(2024年度に控えた35周年記念誌の内容の検討、夕張登山道のプラ看板(6か所のうち3か所の補修→市教育委員会と検討、お花畑近辺の高架木道の破損個所の修繕→空知振興局に再度予算化要請、子供交流事業の再開、馬の背コース上部の段差解消、グッズ販売について、2025カレンダー写真ソース収集周知)
 - ・会計から(名義変更、領収証の保存期間、会計担当複数化、小銭の運用について、会則の住所表記の変更)
 - ・役員改定(若干名の役員交代:要望含)
 - ・ヒュッテ管理委員会(トイレ棟屋根補修、母屋の2階部分の内装工事、管理人の交代時間について)、他

前岳湿原不要木道整理事業が終了

プロ・ナチュラフアンドから助成をいただいた「夕張岳登山道の重複木道の整理&植生復活事業」の2年計画事業が終了しました。

11月26日に東京で行われた22年度自然保護助成基金「助成成果発表会」に事務局の菊地が参加して成果発表をさせていただきました。自然保護助成基金は助成先の中でもかなり敷居が高く、報告や会計などについても苦労しました。以下、報告会において発表資料に記載した反省点などをまとめたものになります。

反省点・気づき・課題・今後について

- ・新型コロナの蔓延により夕張市との協議でヒュッテの宿泊自粛↓事業の延期申請↓キックオフ後に鼻を挫かれた感。他の案件に着手した関係で、翌年からのリスタートにパワーを奪われ、計画から遅れ気味(ドタバタ)になった。
- ・2年計画のプロジェクトが初めてであり、人のアサインや役割分担についても確実に決めておくことができなかった。
- ・登山時の人的奉仕(物資運搬等)は、大雪山国立公園をはじめ各地で行われていて抵抗感なく協力していただける方も多かった。
- ・不要木道を撤去した跡地については、1シーズンそのまま放置後の状態を見て、対処する予定であったが、思いのほか自然治癒度が高く、ムシロを使用した養生・植生の回復は不要と判断。
- ・植生の回復フェーズはまだ1年目↓あと数年間は回復の進行具合を調査・記録していく必要がある。
- ・長期間の木道敷設により、木道沿いに「水路」が出来て、以前の湿原の保水状態ではない↓長期的に対応策を考えたい

会費の継続納入・ご寄付
ありがとうございます！

夕張岳の自然に興味のある方、当会の活動に関心をお持ちの方は、ユウパリコザクラの会へ入会またはご寄付をよろしくお願い致します。

年会費 2,000円 家族会員 3,000円

名義：ユウパリコザクラの会

ゆうちょ口座：02780-9-43747

【お仕事の例】

- ・監視パトロール(道委託/森林管理署協定)
- ・ヒュッテ管理人・維持管理(夕張市委託)
- ・高山植物観察員/文化財・森林観察員
- ・各関係団体との交流/広報・庶務作業



夕張岳ヒュッテの維持管理
と炊事棟建設にご支援を！

昨年は局地的な豪雨で2度の林道通行止めがありました。また週末の天気の良い傾向にあり、登山者も例年に比べて少なかったようです。宿泊協力金も減となりました。しかしヒュッテの募金箱や募金口座などにたくさんの温かい寄付をいただきました。今年も夕張市周辺は雪が多いようです。

小屋開け予定の6月には、なんとか林道が無事できてほしいと願っています。

名義：ユウパリコザクラの会

ゆうちょ口座：02780-9-43747

(ヒュッテ用口座はコザクラ口座に統一されました)

